

事業名称	オリヒメジプロジェクト～ノーマライゼーションな姫路を目指して～
団体名	オリヒメジプロジェクト実行委員会
協働の相手方	地域福祉課・障害福祉課

目的	障害当事者や引きこもりの方々は、精神または身体への障害により社会参加への大きな壁を感じていることが多く、日常的に孤独を感じたり、孤立したりすることが多い。そこで、全事業において導入した株式会社オリイ研究所が提供するオリヒメという分身ロボットを用いて、企業への就労や学校等での授業への参加を行えるよう支援することで障害当事者や引きこもりの方々の新たな社会進出へのモデル事業を作っていく。
内容	障害当事者を対象とした分身ロボット「オリヒメ」を用いた就労活動および引きこもりの方々を対象とした教育分野での活用方法の模索 両分野における啓発活動
事業経過	オリヒメを3クールに分けて、レンタルを行い事業を実施。
事業の効果	まず、障害当事者によるオリヒメを活用した就労活動については、昨年度実施した本事業によるオリヒメ活用による啓発活動が活きており、興味を持たれた事業所様にてイベント等で就労活動を行うことができた。それにより、実際に事業所様からオリヒメを操作したパイロット（就労当事者）に時給を支払うと事例を作ることができた。次に、教育分野においては、引きこもりの方々やその家族にオリヒメを操作していただくワークショップを開催したり、教育委員会と連携し、他県の学生さんと遠隔で触れ合う機会を得ることができた。
今後の展望	まず、就労の観点においては、本事業によって障害当事者がパイロットとなり、実際にオリヒメを活用した就労活動を行うという実績を作ることができた。オリヒメを用いることによる課題も見えてきたが、同時に障害当事者にとって新たな就労支援の手段であることを示すことができた。次に、教育分野においては、引きこもり当事者の方にオリヒメを活用していただいたり、当事者のご家族様を交えたワークショップを開催し、オリヒメの啓発活動や有益な活用方法について模索を行った。当事者の方々にとっては、自分が相手に見えないのにコミュニケーションをとることができるというメリットを活かすことで、今後は学校や塾等の教育機関での活用が期待できるのではないかと思う。

【実施団体の事業総括・感想等】

本事業を通じて、就労・教育分野ともに、分身ロボットオリヒメを活用した将来性を実感することができた。いずれにおいても、オリヒメを用いるメリットとして相手側に自身が見えないのに、コミュニケーションをとることができるということが、障害当事者や引きこもりの方々の社会参加を促進するうえで有益であると感ずることができた。課題として、オリヒメとコミュニケーションを取る側にとってオリヒメから聞こえてくる音声が届きにくい、Wi-Fi環境によって遅延が発生するなどの課題も散見された。これらについては、オリヒメをレンタルしているオリイ研究所の方へフィードバックしていきたいと思う。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

事業を通じて、様々な場所でオリヒメを活用する実績が築けたことで、障害者の活躍の場が広がる可能性が感じられた。コミュニケーションをメインとするロボットをいかに就労につなげるかという点で多様なチャレンジと工夫が考えられており、パイロットである障害者の経験にもつながった。